



年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習

教科： 工業（インテリア） 科目： インテリア実習 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 インテリア科 2パート・2サイクル

教科担当者： 白石 菜美 喜多崎 薫

使用教科書： ( )

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・用具の使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習 の特性を習得できるようにする。	鉛筆デッサンによる 描写表現 . 平面構成による デザイン感覚養成 . パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法を習得できるようにする。 ・講評などを通して、作品を検討し合い、様々な伝達表現について理解できるようにする。		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・用具やパソコンの使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習		・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法の学習 ・講評（伝達表現の基礎）		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学期	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習	鉛筆デッサンによる 描写表現 . 平面構成による デザイン感覚養成 . パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習		・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		13
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学期	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）	パソコンによる 基礎造形描画操作技術の習得 . プレゼンテーション	・レタリングと構成、造形描画制作、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）		・レタリングと構成、造形描画制作、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）		・学年のまとめとして、レタリングと構成、造形描画操作、及びプレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10 合計 117

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリアエレメント生産

教科： 工業（インテリア）

科目： インテリアエレメント生産

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 インテリア科

教科担当者： 白石 菜美

使用教科書：（ インテリアエレメント生産 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリアエレメント生産 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・インテリア材料の（木材・木質材料・金属・テキスタイル・プラスチック等）の特性を習得できるようにする。	・インテリア材料と加工 ・木材と木質材料 ・木材の性質	・インテリア材料に関する基礎的な知識と技能を習得し、エレメントを生産についての理解度。	○	○		6
	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎を習得し、インテリアエレメントの生産ができるようにする。	・木質材料 ・木材加工の基礎	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎的な知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産ができる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法を理解する	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている	○	○	○	1
	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具等の機能分類と様式、材料、構造、システムを習得できるようにする	インテリアエレメントの構造 ・家具の分類	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具の機能分類と様式、材料、構造、システムについての知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産について理解できる。	○	○		8
	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	・椅子ベッド ・机テーブル ・収納家具	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて知識・技術を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
2 学期	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についてインテリアの空間での活用と、その役割を習得できるようにする。	・建具の分類 ・内部用建具 ・外部用建具	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についての基礎的な知識・技能を習得し、インテリアの空間での活用と役割を理解できる。	○	○		7
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着 ・接着の基礎	・接着の基礎と木材の接着性について知識・技能を習得し、家具制作における接着剤の性能と使用法について理解できる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア空間、及び接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着剤 ・接着用具	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できる。	○	○		8
	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。 定期考査 ・1・2学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・表面処理 ・塗装 ・塗装の種類  ・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。  ・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○		6  1
3 学期	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・塗装用具 ・塗装以外の表面処理	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め学習できるようにする。	・生産技術 ・木材加工用機械 ・生産計画	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め習得できる。	○	○		7
	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等の基礎を習得できるようにする。	・工程管理 ・家具生産の工程	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等について知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査 ・学年のまとめの内容をまとめ、理解できるようにする。	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	合計 78



年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリア実習（木材加工 A・B）

教科：工業（インテリア）

科目：インテリア実習（木材加工 A・B）

単位数：A：2単位 B：3単位（前後期交代で通年では2.5単位となる）

対象学年組：第2学年 インテリア科

教科担当者：（A）松本 和樹・伊藤 和生 （B）伊藤 和生・青柳 俊政

使用教科書：（木材加工系実技教科書）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア実習（木材加工 A・B） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける	・基礎的な木材加工課題を通して、インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として木材加工技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア及び木材加工産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習	引き出し付箱の製作	・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		10
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	10
	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習		・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		10
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	10
2 学期	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習	引き出し付箱の製作 箱づくりのための 工具管理	・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習		・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
3 学期	・基礎的な素地調整・着色についての学習	引き出しの塗装	・素地調整・着色の基礎的技術を習得させる。	○	○		10
	・基礎的な下塗り・中塗りについての学習		・下塗り・中塗りの基礎的技術を習得させる。	○	○		10
	・基礎的な仕上げ塗りについての学習 ・レポートとして課題制作のまとめの学習		・仕上げ塗りの基礎的技術を習得させる。 ・レポートを課題としてまとめの学習を習得させる。	○	○	○	9 合計
						117	



年間授業計画

高等学校 令和8度(2学年用) 教科 工業(インテリア) 科目 工業情報数理

教科: 工業(インテリア) 科目: 工業情報数理 単位数: 2 単位 2単位(前期・後期2パート)

対象学年組: 第2学年 インテリア科

教科担当者: (I組: 松本和樹)

使用教科書: (工業情報数理)

教科 工業(インテリア) の目標:

【知識及び技能】工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理活用する力の向上を目指す。

科目 工業情報数理 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの伝達手段として使用するコンピュータソフトの操作方法を理解する ・店舗設計における設計の基本知識を理解する ・模型製作に必要な技術、知識を習得する	・店舗設計における設計の基礎知識を理解する ・商業形態を理解し空間設計をおこない、設計図、模型等で表現する	・インテリアや空間設計に関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	基礎知識 ・店舗設計に必要な空間、設備等を把握する。 ・人体寸法について理解する。	・スケール感、動作空間・単位空間、人体寸法について理解する。 ・ホワイトモデルの位置づけを理解する。	・設計条件を正しく理解し、商業店舗の概要の決定をおこなっているか。 ・設計の店舗設定を詳細かつ具体的におこなうことができたか。	○	○	○	8
	空間設計 ・商業店舗の設計基礎知識をいかし、アイデアを形にする技術を身に着ける。	・設計の工程を理解する。 ・RC造を想定した店舗を計画する。 ・もとに、エスキスを繰り返し設計プランを決定する。	・店舗設定を踏まえた上で、ラフスケッチや内観外観パースをかくことができたか。 ・エスキスを繰り返しおこない、設計プランの検討を重ね、最終的に設計プランを決定することができたか	○	○	○	8
	図面作成 ・CADソフトを使用して、商業店舗の設計図を作成することができる。	・CADソフトを使用して商業店舗の平面図を作成する。 ・CADソフトを使用して商業店舗の立面図を作成する。	・CADソフトの使い方を理解し、平面図、立面図を正確に作成することができたか。	○	○	○	6
	模型製作 ・工程やスケール感、空間理解を深めるとともに、建築模型の製作技術を習得する。	・建築模型製作の工程を理解する。 ・縮尺1/50の模型を製作する。	・建築模型の作成方法を身に着け、1/50の模型を製作することができたか。 ・計画した店舗をより詳細に表現できたか。 ・空間を把握し、スケールにあった模型を製作できているか。	○	○	○	6
2 学 期	模型撮影・プレゼンボード作成 ・製作した模型を、設計主旨が第三者に伝わりやすいような写真を撮影できるようになる。	・建築模型製作の撮影をおこなう。 ・プレゼンボードを作成する。	・設計主旨が伝わる写真を撮影することができたか。 ・撮影写真を使用し、設計主旨が伝わるプレゼンボードを作成できているか。	○	○	○	6
	基礎知識 ・店舗設計に必要な空間、設備等を把握する。 ・人体寸法について理解する。	・スケール感、動作空間・単位空間、人体寸法について理解する。 ・ホワイトモデルの位置づけを理解する。	・設計条件を正しく理解し、商業店舗の概要の決定をおこなっているか。 ・設計の店舗設定を詳細かつ具体的におこなうことができたか。	○	○	○	8
	空間設計 ・商業店舗の設計基礎知識をいかし、アイデアを形にする技術を身に着ける。	・設計の工程を理解する。 ・RC造を想定した店舗を計画する。 ・もとに、エスキスを繰り返し設計プランを決定する。	・店舗設定を踏まえた上で、ラフスケッチや内観外観パースをかくことができたか。 ・エスキスを繰り返しおこない、設計プランの検討を重ね、最終的に設計プランを決定することができたか	○	○	○	8
	図面作成 ・CADソフトを使用して、商業店舗の設計図を作成することができる。	・CADソフトを使用して商業店舗の平面図を作成する。 ・CADソフトを使用して商業店舗の立面図を作成する。	・CADソフトの使い方を理解し、平面図、立面図を正確に作成することができたか。	○	○	○	6

3 学 期	<p>図面作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CADソフトを使用して、商業店舗の設計図を作成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADソフトを使用して商業店舗の平面図を作成する。</li> <li>・CADソフトを使用して商業店舗の立面図を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADソフトの使い方を理解し、平面図、立面図を正確に作成することができたか。</li> </ul>	○	○	○	6
	<p>模型製作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工程やスケール感、空間理解を深めるとともに、建築模型の製作技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築模型製作の工程を理解する。</li> <li>・縮尺1/50の模型を製作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築模型の作成方法を身に付け、1/50の模型を製作することができたか。</li> <li>・計画した店舗をより詳細に表現できたか。</li> <li>・空間を把握し、スケールにあった模型を製作できているか。</li> </ul>	○	○	○	6
	<p>模型撮影・プレゼンボード作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作した模型を、設計主旨が第三者に伝わりやすいような写真を撮影できるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築模型製作の撮影をおこなう。</li> <li>・プレゼンボードを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計主旨が伝わる写真を撮影することができたか。</li> <li>・撮影写真を使用し、設計主旨が伝わるプレゼンボードを作成できているか。</li> </ul>	○	○	○	6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタバース体験及びアプリケーションを通じてVR技術を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリケーションソフト【クラスタ】を使えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業店舗についてWeb形式にまとめることで効果的な表現ができたかどうか。</li> <li>・HTML言語の仕組みと構造について理解できたかどうか。</li> </ul>	○	○	○	4
						合計	78

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（インテリア）

科目 工業情報数理

教科： 工業（インテリア）

科目： 工業情報数理

単位数： 2

単位

2単位(前期・後期2パート)

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者： (I組：斎藤俊博)

使用教科書： ( 工業情報数理 )

教科 工業（インテリア）

の目標：

【知識及び技能】 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理活用する力の向上を目指す。

科目 工業情報数理

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに工業に携わる者として様々な状況に対応する技術を身に付ける。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応する力を養う。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理活用する力の向上を目指し、自ら学ぶ態度や工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	課題① 3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間(高校生の住まい)をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8
	課題② モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得る。またプレゼンテーションをするために必要な手続きを得る。	課題② モデリングしたデータを元に、プレゼンボードを作成、第3者にプレゼンテーションする。 ・レンダリングによる画像生成 ・Illustratorによるボード作成 ・プレゼンテーション	モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得られたか。プレゼンテーションをするために必要な手続きができたかどうか。	○	○	○	7
2 学 期	課題③ 小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学ぶ。また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学ぶ。	課題③ 小住宅の設計について ・マイホームデザイナーの操作法 ・住宅の間取りの考え方について ・インテリアコーディネート ・プレゼンテーションボードの制作とプレゼンテーション	小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学び、また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学んだかどうか。	○	○	○	6
	課題① 3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間(高校生の住まい)をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8



年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリア計画

教科： 工業（インテリア）

科目： インテリア計画

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者： （ 組： 松本和樹）

使用教科書： （

）

教科 工業（インテリア）

の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア計画

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリア空間を計画するために、意義や概要について住生活や工業生産と関連付けて理解する。	建築物などの内部空間をつくるにあたって設計条件や考え方の整理に着目して、インテリア空間の諸問題を解決できる。	インテリアを計画する力の向上を目指し、生活の変化や技術の進展に対応した計画手法について理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A インテリア計画の概要 ・インテリア計画の概要について理解させる。	①近代インテリア史を学び現代のライフスタイルがいかに形成されたかを習得する。 ②インテリアの概念・計画・生活と住まい・住まいの性能について習得する。	【知識・技能】 ①②を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①②を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①②を概ね達成している。	○	○	○	12
	B 空間の認知 空間行動の諸相 ・空間の認知について理解させる。	①空間定位・スケール感・開放感と閉鎖感等について習得する。 ②空間行動、人と人との距離について学習する。	【知識・技能】 ①②を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①②を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①②を概ね達成している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	C インテリアの環境と住まいの性能 ・インテリアの環境と住まいの性能について理解させる。	①屋内や屋外の環境によって住まいに対する要求条件をいかに満たすかを習得する。 ②採光、照度、音、熱、空気についてインテリア空間における要求条件をいかに充足するかを習得する。	【知識・技能】 ①②を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①②を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①②を概ね達成している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学期	A インテリアと人間工学 ・インテリアと人間工学について理解させる。	①人間工学、その意味について学習し、インテリアに関する寸法との関わりを習得する。 ②人体寸法について学習し、生活空間や家具の寸法の関わりを習得する。	【知識・技能】 ①②を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①②を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①②を概ね達成している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	B インテリアの安全 ・インテリアの安全について理解させる。	①住まいにおける安全、日常災害、シックハウス症候群について学び、計画における安全対策を習得する。	【知識・技能】 ①を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①を概ね達成している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学期	A 寸法計画 ・寸法計画について理解させる。	①空間の計画、人体寸法単位空間の動作寸法を含む寸法計画について習得する。	【知識・技能】 ①を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①を概ね達成している。	○	○	○	10
	B 空間計画 ・空間計画について理解させる。 【知識及び技能】	①住宅、事務所、商業施設などの空間構成を学習する。	【知識・技能】 ①を概ね達成している。 【思考・判断・表現】 ①を概ね達成している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①を概ね達成している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
				○	○	○	合計 78

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリア装備

教科： 工業（インテリア）

科目： インテリア装備

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者： 斎藤 俊博

使用教科書：（ インテリア装備 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア装備 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリア装備について室内空間を構成する各部位を踏まえて住生活や工業生産と関連付けて理解するとともに、インテリア空間づくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付ける。	インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工に着目して、インテリア装備に関する課題を見だし、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	インテリア装備の建築物へ施工する力の向上を目指し、生活の変化にともなう建築物やインテリアの立体的な構造、多様なインテリア材料と施工について自ら学ぶ態度や、インテリア産業の発展に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解する。	インテリア装備の概要について ・構造技術の発達 ・構造の種類と構成	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解しているかどうか。	○	○		6
	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	木構造について ・地業と基礎 ・軸組 ・床組 ・小屋組 ・柱組壁構法	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		7
	定期考査 ・建築構造の種類と構成 ・木構造の各部位の構成	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ協働的に取り組む	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ協働的に取り組めたかどうか。	○	○	○	1
	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄骨構造について ・鋼材の接合 ・基礎 ・骨組 ・耐火被膜	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		8
	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄筋コンクリート構造について ・鉄筋コンクリートの構造の特徴 ・材料と施工 ・主体構造 ・鉄筋鉄骨コンクリート構造	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期のまとめ	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
2 学期	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	インテリアの施工について 施工の概要(躯体・下地・仕上げ) 床の下地と仕上げ ・下地構法 ・張り仕上げ・塗り仕上げ・敷き仕上げ	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	壁の下地と仕上げについて ・下地構法 ・張り仕上げ ・塗り仕上げ	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	定期考査 ・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	天井の下地と仕上げについて ・吊り天井 ・直天井 ・システム天井	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	造作について ・和風 ・洋風	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	定期考査 ・1・2学期のまとめ	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
3 学期	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	開口部について ・木構造 ・鉄筋コンクリート構造 ・鋼構造	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	階段について ・木製 ・金属製	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解する。	施工管理について ・施工管理 ・工程管理 ・品質管理	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解しているかどうか。	○	○	○	5
	定期考査 ・学年のまとめ	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	合計 78



年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 福祉住環境A

教科： 工業（インテリア）

科目： 福祉住環境A

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者： (I組：川合まさ子)

使用教科書： ( )

教科 工業（インテリア）

の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 福祉住環境A

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉住環境コーディネーター3級に合格できる知識を習得する。高齢者や障害者の介護の問題を把握し、住環境や社会、福祉を通じて解決する知識を身につける。	高齢者・障害者への視点を持ちながら住宅などの設計に応用できる力を身に着ける。	インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリアに関わる分野を総合的に把握しユニバーサル社会実現のための知識を主体的かつ協働的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	A単元 暮らしやすい生活環境をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会と共生社会への道</li> <li>・福祉住環境整備の重要性、必要性</li> <li>・在宅生活の維持とケアサービス</li> <li>・出題頻度説明</li> <li>・要点確認</li> <li>・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	B 単元 健康と自立を目指して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康と自立</li> <li>・障害者が生活の不自由を克服する道</li> <li>・出題頻度説明</li> <li>・要点確認</li> <li>・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	C 単元 バリアフリーとユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーとユニバーサルデザインを考える</li> <li>・生活を支えるさまざまな用具</li> <li>・出題頻度説明</li> <li>・要点確認</li> <li>・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。</li> </ul>	○	○	○	6
	D 単元 安全・安心・快適な住まい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの整備のための基本技術</li> <li>・生活行為別に見る安全、安心、快適な住まい</li> <li>・出題頻度説明</li> <li>・要点確認</li> <li>・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。</li> </ul>	○	○	○	10
2 学 期	E単元 安心できる住生活とまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルの多様化と住まい</li> <li>・安心できる住生活について学習する。</li> <li>・安心して暮らせるまちづくり</li> <li>・地域で取り組む福祉のまちづくりの実例を学習する。</li> <li>・出題頻度説明・要点確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	F単元 福祉住環境演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉住環境コーディネーター検定試験事前指導</li> <li>・模擬問題演習（問題と解説）</li> <li>・検定申込の確認をおこなう</li> <li>・実際の試験に近い問題に取り組みせ、解説をおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。</li> <li>・模擬問題演習の結果から、福祉住環境コーディネーター検定試験の内容の理解しているか。</li> </ul>	○	○	○	10
	G単元 福祉住環境演習（調べ学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定試験後の自己採点</li> <li>・福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉住環境コーディネーター検定試験で学習した、福祉用具の種類や介護保険で利用できるサービスを理解し、具体例をあげることができるか。調べ学習に主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。</li> </ul>	○	○	○	8

3 学期	H 単元 福祉住環境演習 (調べ学習・発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。</li> <li>プレゼンテーション形式にまとめ、発表リハーサルと本番まで一貫して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉住環境コーディネーター検定試験に関する知識を習得し、福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを具体例をプレゼンテーションできているか。</li> <li>プレゼンテーションに関する技能をいかし、主体的かつ協同的に取り組もうとしているか。</li> </ul>	○	○	○	6
	I 単元 福祉住環境演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>段差と転倒について住まいの整備のための基本技術を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心・快適な住まいについての知識を習得することができているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	J 単元 住宅の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉住宅・施設の現状を知る。</li> <li>介護者のいる住宅設計の提案と発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめとして、福祉住環境コーディネーター検定試験で得た知識をいかし、高齢者・障害者への視点を持ちながら設計をおこない、発表することができたか。</li> </ul>	○	○	○	6
	合計						



年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 課題研究 家具制作

教科: 工業(インテリア)

科目: 課題研究 家具制作

単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年

インテリア科

教科担当者: 伊藤 和生・伊藤 聖樹

使用教科書: ( )

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 課題研究 家具制作

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・家具設計、制作方法、及び機械加工に関する知識を理解し、技術を習得する。 ・安全かつ正確、及び効率的な木材加工技術を理解し、身に付ける。	・市場調査・コンセプト立案に基づくデザイン・設計などの総合的な判断・表現を習得する。 ・安全かつ正確、及び効率的な木材加工技術を理解し、身に付ける。	・家具設計、制作方法、及び機械加工への関心と主体的かつ協動的に取組無態度を養い、技術を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	家具の設計方法を理解、習得させる。	・家具の歴史や市場の調査を行いながら、家具デザイン・制作の意味を学ぶ。 ・テーマ、コンセプトに基づき、アイデアスケッチを描く。	・家具の歴史や市場の動向について調査を行い家具デザイン・制作の意味の理解度。 ・テーマ、コンセプトに基づいたアイデアスケッチでの表現方法の習得度。	○	○	○	12
	家具の製作製図について理解、習得させる。	・仕口、接手、及び工法及び、構造や寸法などを考察して実使用可能な家具の製作図を描く。	・仕口、接手、及び工法及び、構造や寸法などを分かりやすく正確な家具図面の製作技術の習得度。	○	○	○	16
	スタディー模型の製作について、アイデアの検討方法を理解、習得させる。	・各自のアイデアに基づき1/5～1/10のスタディー模型を製作して、デザイン・設計の方向性を確認し、検討を重ねる。	・スタディー模型の製作技術を習得させ、それをもとに立体的・空間的なデザイン・設計を検証する技術の習得度。	○	○	○	12
	材料の木取り方法について理解、習得させる。	・木取りを通し、歩留まり、及び基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	・材料を無駄ない歩留まりを考え、環境に配慮する意識を養いながら、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性の習得度。	○	○	○	16
2 学期	荒木取りの方法について理解、習得させる。	・木取りを通し、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	・基礎的な木工機械の安全で効率の良い使用法・特性などの習得度。	○	○	○	14
	墨付け・木作り方法について理解、習得させる。	・切断・切削等について、手加工や木工機械を用いて木づくりを行い、木工具や木工機械の安全な使用法・特性及びその活用などを学ぶ。	・木工具や木工機械の安全で効率の良い使用法・特性及びその活用などの習得度。	○	○	○	16
	手加工、及び機械加工の方法について理解、習得させる。	・仕口や接手などの部位について、切断・切削・穿孔等について、手工具、及び木工機械における加工を学ぶ。	・切断・切削・穿孔等について、手工具、及び木工機械における加工方法の習得度。	○	○	○	14
	組立て、及び接合方法について理解、習得させる。	・仕口等のはめあい等の調整を行い、仮組み行程、接着、圧縮についての方法を学ぶ。	・正確で効率的な仮組み、接着、圧縮についての方法の習得度。	○	○	○	16
3 学期	木工塗装技術方法について理解、習得させる。	・家具塗装の一連の流れである素地調整・着色・下塗り・中塗り・仕上げ塗りを体得して学ぶ。	・素地調整・下塗り・着色・中塗り・仕上げ塗りについて、一連の家具塗装の技術の習得度。	○	○	○	16
	プレゼンテーションについて理解、習得させる。	・制作した家具について、テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすくかつ正確に他者に伝達できるようプレゼンテーションを学ぶ。	・テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーション方法の習得度。	○	○	○	12
	3年間の集大成としてまとめ、卒業や校内展示等での伝達方法について理解、習得させる。	・卒業や校内展示において、各自の家具をテーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすく、かつ正確に他者に伝達できるよう展示計画を行い、展示方法などを工夫して提案する。	・テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすく、かつ正確に他者に伝達する為の展示計画、及び展示技術の習得度。	○	○	○	12
						合計	156

年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 課題研究 店舗設計(3DCG)

教科: 工業(インテリア) 科目: 課題研究 店舗設計(3DCG)

単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者: 斎藤俊博

使用教科書: ( )

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 課題研究 店舗設計(3DCG)

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・店舗(飲食店)の計画、設計に関する知識を理解し、技術を習得する。 ・3次元CGの仕組みや技術を理解し、各種のソフトウェアを使いこなす知識と技術を身につける。	・市場調査・コンセプト立案に基づくデザイン・設計などの総合的な判断・表現を習得する。 ・3次元CGやその編集技術を用いて商業空間を第三者に表現する技術を理解し、身に付ける。	提案を提示する上での確かなプレゼンテーションが行われ、課題解決になっているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	店舗(飲食店)の設計に関する基礎知識を学ぶ 立地・条件設定 コンセプト立案	店舗(飲食店)の設計のポイント 用途地域や周辺環境についての基礎知識 立地や客層の設定について	・店舗の設計の基礎知識を身につけたか ・課題設定に対する視点が明確であり、コンセプトや設計図面に反映されているか。	○	○		12
	配置・レイアウトに関する基礎知識を学ぶ 平面のエスキース 外観のスケッチ CADの操作法	配置計画のポイント 店舗内のゾーニングについて CADソフト(Vectorworks)の使用法	・設定された敷地に立地条件が生かされた配置計画がされているか ・コンセプトが反映された合理的な平面計画が行われているか	○	○		16
	平面計画の詳細を学ぶ 厨房の計画 店内の配置 中間プレゼンテーション①	店舗内の動線計画 厨房の構成・配置 座席のレイアウト プレゼンテーションソフト使い方	・業態やコンセプトに沿った適切な動線や厨房の配置がされているか ・効果的なプレゼンテーションができたか 反応はどうであったか	○	○	○	16
	3DCGによる躯体のモデリングを学ぶ 什器のデザイン・設計	3Dデータに関する基礎知識 3Dモデリングソフト(Form-Z)の使用法 各種店舗什器の基礎知識	・各種3Dデータの違いや用途を理解したか ・効率的なデータの作成ができていないか ・各種什器の違いについて理解したか	○	○		16
2 学 期	3DCGの質感設定を学ぶ	モデリングした3Dデータをレンダリングソフトに取り入れ、色・反射・透明度などを考慮しながら質感の設定を行う	・3Dデータの構造について理解したか ・データのインポート方法を理解したか ・質感を決定する要素について理解したか ・必要とする質感が表現が実現できたか	○	○		16
	3DCGの光源設定を学ぶ	質感を設定した3Dデータに太陽光・環境光・室内照明などの各種光源を設定する	・光源設定の仕組みについて理解したか ・光源の設定やインポート方法を理解したか ・環境を決定する要素について理解したか ・必要とする光源が表現が実現できたか		○	○	20
	3DCG空間の環境設定を学ぶ	質感や光源を設定した3Dデータに、置かれた条件を考慮しながら背景を設定する	・3Dにおける環境について理解したか ・環境データの作成方法を理解したか ・必要とする背景が表現が実現できたか			○	20
	映像の動画の編集技術を学ぶ プレゼンテーションボードの作成	ウォークスルーアニメーションを制作、効果的な構成を考えながらPC上で映像編集を行う	・映像の編集技術の基礎を理解したか ・設計意図を表現する構成にできたか ・必要とする映像を得ることができたか	○	○		12
3 学 期	プレゼンテーション用スライドの作成	プレゼンテーションソフトを利用してプレゼンテーションの視覚的効果を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達することができたか。	○	○		16
	プレゼンテーション準備	効果的な展示計画・プレゼンテーション方法を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションが理解できているか。		○	○	8
	プレゼンテーション	卒展において店舗設計班として店舗の提案を行う そのための設営方法や展示計画を行う	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションができるか。 ・卒業展示の方法など主体的に検討できているか。	○	○	○	4
						合計	156



年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 インテリア実習A

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習A

単位数: 3 単位 (2パート・2サイクル)

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者: 松本 和樹・喜多崎 薫

使用教科書: ( )

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリア実習A

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の知識・技術をポートフォリオを通じて適切に表現することができる。</li> <li>インテリア空間における対象や事象を捉える色彩的・構成的な視点について理解を深め、効果的な色彩表現の知識と適切な素材構造の提案ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学んだ色彩の基礎知識をもとに、環境と色彩の関係に置き換え、表現の意図と創意工夫、デザインの働きなどについて考えるとともに、イメージした世界観から発想や構想を練ったり深めたりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の目的を的確に理解し、主体的に学習の幅を広げたり、制作手順を考えた上でより良い作品制作に取り組める。</li> </ul>

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自がこれまでに行った課題や制作物を整理し、デジタルデータ化して保存させる。</li> <li>整理したデジタルデータを活用し、DTP作業を行い、「ポートフォリオ」の作製する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が制作した作品の整理</li> <li>撮影(作品の立体感が出る撮影)</li> <li>平面作品のスキャナーによる取込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影に主体的に取り組んでいるか</li> <li>DTP作業に取り組む姿勢</li> <li>自ら新しいデザインを生み出し、意欲的に取り組むことができているか</li> </ul>	○	○	○	21
	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルデータを活用し、DTP作業を行い、「ポートフォリオ」の作製する。</li> <li>デジタルデータの入稿方法について基礎的な知識を養わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面作品のスキャナーによる取込み</li> <li>デジタルデータの入稿作業及び印刷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DTP作業に取り組む姿勢</li> <li>自ら新しいデザインを生み出し、意欲的に取り組むことができているか</li> <li>作品提出(指定された要綱が守られているか)</li> </ul>	○	○	○	21
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や雑誌などから「室内空間」を選択して、デジタルデータにする。</li> <li>デジタルデータをアートボードに転写する。</li> <li>室内空間の着彩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテリアの構成を考え、題材選ぶ</li> <li>全体のイメージを崩さないように表現</li> <li>インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DTP作業に取り組む姿勢</li> <li>インテリア空間を着彩の技術で表現できているか</li> <li>作品提出(指定された要綱が守られているか)</li> </ul>	○	○	○	23
	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や雑誌などから「室内空間」を選択して、デジタルデータにする。</li> <li>デジタルデータをアートボードに転写する。</li> <li>室内空間の着彩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテリアの構成を考え、題材選ぶ</li> <li>全体のイメージを崩さないように表現</li> <li>インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DTP作業に取り組む姿勢</li> <li>インテリア空間を着彩の技術で表現できているか</li> <li>作品提出(指定された要綱が守られているか)</li> </ul>	○	○	○	22
3 学期	プレゼンテーションの方法について理解、習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ・コンセプトをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ・コンセプトなどをまとめ、分かりやすく的確に他者に伝達する表現方法ができているか</li> </ul>	○	○	○	21
		<ul style="list-style-type: none"> <li>作品のプレゼンテーションを実施して他者への伝達の演習を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を用いてプレゼンテーションを行い、分かりやすく的確に他者に伝達する表現方法ができているか</li> </ul>	○	○	○	9
							合計
							117



年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 インテリア実習B(デッサン)

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習B(デッサン)

単位数: 3 単位 (4パート・2サイクル)

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者: 白石 菜美

使用教科書: ( )

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリア実習B(デッサン)

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
デッサンに関する描写手法、構図・形態・空間、材質、陰影等の表現における知識と技術を理解し、習得する。	対象物の捉え方について工夫して思考し、他者への伝達などを総合的に判断し、表現する力を習得する。	描写表現についての関心、及び講評等を含め主体的かつ協動的に取組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期  <1 サイクル> デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		21
	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	21
2 学期  <2 サイクル> デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		23
	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	22
3 学期  デッサン課題におけるプレゼンテーション、及び講評を行い、他者への伝達方法と客観的に作品を捉える見方・考え方を理解、習得させる。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	21
	・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	9
						合計
						117



年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 インテリア実習B(ウッドクラフト・構造力学)

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習B(前期:ウッドクラフト・後期:構造力学)  
 対象学年組: 第 3 学年 インテリア科  
 教科担当者: 伊藤 和生  
 使用教科書: ( )

単位数: 3 単位 (4パート)

教科 工業(インテリア) の目標:  
 【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする  
 【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする  
 【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む  
 科目 インテリア実習B(ウッドクラフト・構造力学) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・ウッドクラフト…使い方や遊び方を考慮し、木質系材料を使用したクラフト作品の制作を通し、素材の活用、加工方法を通じてものづくりへの興味と関心を高める。 ・構造力学…建築系進学者を対象に構造力学の基礎を学び、建築物の安全について興味と関心を高める。	・ウッドクラフト…アイデアを具体的に形のある作品にしていく中で、ウッドクラフトしてのコンセプト、木材加工をどのようにして、木の特性の表現を高めていく。 ・構造力学…力の流れが力学的にどのような状態にあるか直感的に判断・表現させる。	・ウッドクラフト…木という特性について作品がどう生かされたか関心、及び講評等を含め主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ・構造力学…身近にある建築物を注意深く観察させ、建築物の力の流れが力学的にどのような特徴があるか直感的に判断・表現させる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 ①使い方や遊び方を考慮し、木質系材料を使用したウッドクラフト作品の制作を通し、素材の活用、加工方法を通じてものづくりへの興味と関心を高める	①アイデアを具体的に形のある作品にしていく中で、ウッドクラフトしてのコンセプト、木材加工をどのようにして、木の特性の表現を高めていく	①クラフトについて調査を行いデザイン・制作の意味の理解度 ②テーマ、コンセプトに基づいたアイデアスケッチでの表現方法の習得度 ③スタディー模型の製作技術を習得させ、それをもとに立体的・空間的なデザイン・設計を検証する技術の習得度	○	○	○	18
	①木取りを通し、歩留まり、及び基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	①材料を無駄ない歩留まりを考え、環境に配慮する意識を養いながら、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性の習得度 ②テーマ、コンセプトに基づいたアイデアをウッドクラフトの作品として表現できている。	○	○	○	24
2 学期 ①建築系進学者を対象に構造力学の基礎を学び、建築物の安全について興味と関心を高める。 ②最新建築技術について体験を通して興味関心を高める	①支点と荷重の種類 ②反力について・静定ばりの応力について(単純ばりの応力、片持ちばりの応力) ③最新建築技術について体験学習を通して学ぶ	①支点と節点、荷重および外力に関心を持ち、構造物と荷重および外力と力学的な扱いについて主体的かつ協働的に取り組み、理解できているか。 ②単純梁や片持梁に関心を持ち、その解法に関心を持ち、主体的かつ協働的に取り組み、理解できているか。 ③建築技術について体験学習を通して興味関心を持てたか	○	○	○	23
	①静定ラーメンの応力について(片持ちばり系ラーメンの応力、単純ばり系ラーメンの応力) ②最新建築技術について体験学習を通して学ぶ	①静定ラーメンに関心を持ち、その解法について主体的かつ協働的に取り組み、理解できているか。 ②建築技術について体験学習を通して興味関心を持てたか	○	○	○	22
3 学期 ①部材に関する力学について応力度や断面の力学的な性質を踏まえて理解する。また、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径および断面の主軸について理解できる。 ②最新建築技術について体験学習を通して興味関心を高める。	①材料の性質について(応力度) ②建築技術について体験学習を通して学ぶ	①部材の断面設計に関心を持ち、部材に生じる応力度および部材の強さについて主体的かつ協働的に取り組み、理解できているか。 ②建築技術について体験学習を通して興味関心を持てたか	○	○	○	21
	①断面の性質について(断面1次モーメント2次モーメント、断面係数、応力度) ②最新建築技術について体験学習を通して学ぶ	①部材の断面設計に関心を持ち、部材に生じる応力度および部材の強さについて主体的に取り組み、理解できているか。 ②建築技術について体験学習を通して興味関心を持てたか	○	○	○	9
						合計
						117

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（インテリア） 科目

デザイン史

教科：工業（インテリア）

科目：デザイン史

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年

インテリア科

教科担当者：林田 千鶴

使用教科書：（高等学校用 History of Design デザイン史（文部科学省））

教科 工業（インテリア）

の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 色彩の基礎知識を環境に生かすための創意工夫などイメージした世界観から発想や構想を検討できる。

【学びに向かう力、人間性等】 課題の目的を理解した上で全工程をイメージし、よりよい結果を想像し計画的に制作できる。

科目 デザイン史

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①古代から現代まで時代や文化背景と各建築様式の発生や進化の過程を理解する ②各建築様式の特徴や建築家、作品などの知識を得る	①社会背景と造形の因果関係を知り、各時代の建築作品の特徴について説明できる ②課題について自ら条件を選択し発案、またその論理を図や言葉で他者に解説ができる表現力を養う	①各建築様式の特徴や社会背景について自主的にまとめ、因果関係を知ろうとする姿勢 ②デザイン作品について興味関心を持って授業へ能動的に向き合う姿勢や発案を他者と積極的に共有する態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	<日本 原始・古代から近世>	01. デザイン史(建築史)の見方 合理性とはなにか？ 02. 原始のデザイン 環境適応 03. 古代・社寺建築① 更新と形式 04. 古代・社寺建築② 軸と権威 05. 古代の住宅 開放性 06. 中世の住宅 機能分化 07. 近世の住宅 簡素化	【知識及び技能】 ・社会・文化的背景について理解しているか ・デザイン様式としての特徴を理解しているか  【思考力、判断力、表現力等】 ・社会・文化的背景とデザイン様式の特徴を関連付け因果関係について思考し、課題に沿った自己の論理を解説できているか  【学びに向かう力、人間性等】 ・授業内の発言や参加態度 ・意図を読み取りながら、指示や助言を理解し、制作に結び付けて聴いている。	○	○	○	21
	<西洋 古代> 定期考査（期末）	08. 古代文明のデザイン① 古代エジプト・巨大建築と権力					3
2 学期	<西洋 古代から近世>	09. 古代文明のデザイン② 古代ギリシア・比例と人体 10. 古代文明のデザイン③ 古代ローマ・構造技術による巨大空間 11. ビザンチンのデザイン 光による精神空間 12. ロマネスク・ゴシックのデザイン 重厚と光 13. ルネサンスのデザイン 古典回帰と秩序 14. バロックのデザイン 権威の演出	【知識及び技能】 ・社会・文化的背景について理解しているか ・デザイン様式としての特徴を理解しているか  【思考力、判断力、表現力等】 ・社会・文化的背景とデザイン様式の特徴を関連付け因果関係について思考し、課題に沿った自己の論理を解説できているか  【学びに向かう力、人間性等】 ・授業内の発言や参加態度 ・意図を読み取りながら、指示や助言を理解し、制作に結び付けて聴いている。	○	○	○	22
	<西洋 近代> 定期考査（期末）	15. 産業革命 大量生産とアーツ・アンド・クラフツ運動 16. 初期近代のデザイン 機能主義 17. モダニズム① 近代建築の原則 18. モダニズム② 削減する思考					14
3 学期	<近・現代>	19. 日本近代 メタボリズムと日本性 20. ポストモダン 近代批判と引用 21. サステイナブル建築 22. デザインの多様化 統合と因果	【知識及び技能】 ・社会・文化的背景について理解しているか ・デザイン様式としての特徴を理解しているか  【思考力、判断力、表現力等】 ・社会・文化的背景とデザイン様式の特徴を関連付け因果関係について思考し、課題に沿った自己の論理を解説できているか  【学びに向かう力、人間性等】 ・授業内の発言や参加態度 ・意図を読み取りながら、指示や助言を理解し、制作に結び付けて聴いている。	○	○	○	18
	定期考査（学年末）						合計 78







年間授業計画

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 インテリアコーディネーターA

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリアコーディネーターA  
 対象学年組: 第 3 学年 インテリア科  
 教科担当者: 松本 和樹  
 使用教科書: ( )

単位数: 2 単位

教科 工業(インテリア) の目標:  
 【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする  
 【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする  
 【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む  
 科目 インテリアコーディネーターA の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリアコーディネーターとして、インテリア(内装、家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等)に関する幅広い商品知識を持ち人それぞれの住環境の把握から提案できる基礎力・応用力の養成を図る。	インテリアコーディネーターとして、「技術」における分野から住まい手にとって快適な住空間を作るために適切な提言・助言知識、及び、技術を身につけさせる。	心地よさの感覚は人それぞれですが、好みの色や素材を使い、自分の趣味やライフスタイルに合った空間では気持ちよく過ごすことができます。「どんな風に暮らしたいか」、「こんな雰囲気的空間に住みたい」というアバウトな要望を具体的に住まい手のライフスタイルに合った住空間を提言・助言知識、及び、技術を出来る力を身につけさせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	インテリア計画の知識・思考に関する こと	・インテリアの構造・構法と仕上げ に関すること ・環境と設備に関すること	・建築の構造・構法、インテリア(床・壁・天井)の構 法、造作と造作材、機能材料と構法、建具、仕上 げ材と仕上げ等に関する基礎知識を有している。 ・室内環境(熱、湿気、換気・通風、音、光)、住宅 設備(給排水、換気・空調、自然エネルギー、電 気、照明、水回り設備機器)に関する基礎知識を 有している。	○	○		16
		・インテリアコーディネーションの表現 に関すること	・建築設計図書、二次元・三次元表現技法、CAD 表現・レンダリング、プレゼンテーションに関する 基礎知識を有している。	○	○		16
2 学 期	インテリア計画の知識・思考に関する こと	・インテリア関連の法規、規格、制度 に関すること	・インテリアに関連する建築・住宅、省エネ・環境・ リサイクル、高齢者・障害者配慮、品質・安全性等 分野の法規制・規格・制度・表示に関する基礎知 識を有している。	○	○		18
		インテリア計画の思考・提案に関する こと	・インテリア計画の提案に関すること (図面表現)	・インテリアの基礎知識をもとに、住まいなどのイ ンテリアに関する与えられた課題について、与条 件を理解した上でインテリア計画を行い、図面作 成や着色により必要な情報を分かりやすく表現 し、伝達できる能力を有している。	○	○	○
3 学 期	インテリア計画の思考・提案に関する こと	・インテリア計画の提案に関すること (提案文章)	・住まいなどのインテリアに関する与えられた課題 について、インテリアコーディネーターとして、これ を理解し、判断した上で、的確な解答を文章で明 瞭に表現できる能力を有している。	○	○	○	10
		合計					





年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリア技術C（木曜選択）

教科： 工業（インテリア） 科目： インテリア技術C（木曜選択）

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 インテリア科

教科担当者： 林田 千鶴

使用教科書： （ ）

教科 工業（インテリア）

の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア技術C（木曜選択） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
設計競技テーマの社会背景や課題に関する知識を理解し、問題点とその解決方法を考察することができる。 設計競技で求められる表現方法でプレゼンテーションを作成する技術を養う。	アイディアの構築からプレゼンテーションまで、一連のデザインワークを自己管理し、表現することができる力を身に着ける。	社会背景へ関心を持ち、デザインワークと関連付け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	デザインコンペ参加 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。</li> <li>コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。</li> <li>具体的なデザイン提案を作成する。</li> <li>コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。</li> <li>効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。</li> <li>プレゼンテーションツールを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。</li> <li>設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。</li> <li>コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。</li> <li>設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作する。</li> <li>設計競技規定に則った素材が準備できているか。</li> </ul>	○		○	6
	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。</li> <li>お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。</li> <li>コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か</li> <li>質疑応答に対する態度に敬意があるか</li> <li>プレゼンテーション資料の充実度</li> </ul>	○	○	○	6
2 学期	デザインコンペ参加 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。</li> <li>コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。</li> <li>具体的なデザイン提案を作成する。</li> <li>コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。</li> <li>効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。</li> <li>プレゼンテーションツールを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。</li> <li>設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。</li> <li>コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。</li> <li>設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作する。</li> <li>設計競技規定に則った素材が準備できているか。</li> </ul>	○		○	7
	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。</li> <li>お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。</li> <li>コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か</li> <li>質疑応答に対する態度に敬意があるか</li> <li>プレゼンテーション資料の充実度</li> </ul>	○	○	○	7
3 学期	インテリアにおける プレゼンテーション演習 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテリアデザインに関する理解をもとに演習を行なう。</li> <li>テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。</li> <li>お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。</li> </ul>	○		○	6
			<ul style="list-style-type: none"> <li>コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。</li> </ul>			○	8
			<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作できる。</li> </ul>	○	○	○	6
			<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。</li> <li>コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か</li> </ul>	○	○	○	合計 78